

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372201024		
法人名	有限会社 敬仁会		
事業所名	グループ ホーム 万富の家		
所在地	岡山市東区瀬戸町万富1908-1		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3372201024&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成22年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地区の老人会、区民、民生委員、子供会、保育園の協力を得て年間行事も盛大に出来るようになりました。地域の方からは自家焙煎野菜の提供があります。庭での外気浴、草むしりをしていると近所の方の声掛けや会話等段々と地域の方とも自然な触れ合いが利用者、職員もできるようになりました。入居者が元気でのびのびと生活の出来るように地域を大切にしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護とは全く異なる業種の大企業に勤務していた代表者は、妻の強い勧めで住んでいたの地にホームを開設した。地域と共に在りたいとのホームの姿勢は好感を持って受け入れられ閑静な住宅地の中にごく自然に溶け込んでいる。今ではシフトに入って業務を目指し、その人柄そのままの温かみのある運営で、職員の離職もほとんどなく、利用者・職員それぞれが個性を出し合い、互いを気遣う仲良く明るい大家族になっている。代表者の息子もその仲間入りを果たし「男の子居らんから、こんな子居たらええな思うたら嬉しゅうて血圧上がるかも知れん」わいわい賑やかな家族の輪は更に広がりパワーアップしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール掲示板に掲示し、スタッフがいつでも確認できるようにしている。実践できている。	同一母体法人全体での共通理念は、開設して4年経過した現在も全くぶれはなく日々の支援の根底にある。ミーティングの時話し合い、ケアを通じて気づきを伝え、寄り添った介護の実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時近隣の人に挨拶をしたり話しをしている。近隣の人が野菜を持って来て下さったりする。	地域の運動会や秋祭りの子供御輿を見に行き、地区の文化祭には利用者共同作品を出品した。恒例のホーム夏祭りや餅つきには地元の人が手伝いに来て共に楽しみ、保育園児との交流も定着した。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	万富公民館で11月に開催される文化祭に展示作品を提出して、見学に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動内容を報告している。夏祭り、餅つきのホームでの行事の件を会議で話し合い、一緒に開催している。	老人会役員・民生委員・区長・家族・時には利用者も参加して、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。家族や老人会役員から夏祭りの協力申し出があったり、災害時の地域協力をお願いする等開催効果も挙がっている	会議形式の集まりだけでなく、たまにはホームの行事と会議を同時開催して利用者と共に行事に参加してもらってはどうか。更に理解が深まり具体的な話し合いが出来そうだ。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援担当者の方と施設のサービス内容等を知己内に紹介、広報して頂き、また、介護の情報、アドバイス等を受けている。	何かあれば市の担当者に相談して、指導・助言を受けている。今回初めて地域包括支援センター担当者が運営推進会議に出席してくれた。これからも市の担当者に出席をお願いしてホームの現状を伝え連携を図りたいと考えている。	ホームは地域包括支援センター担当者の運営推進会議参加をととても喜び、今後も出席依頼を切望している。市もこれに応えて、より良いサービス提供を目指して協力して欲しい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は必要最低限で使用しているが、畑や洗濯物干しに自分で行かれる人は自分で開けて出ている。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、職員会議でも話し合っている。利用者の行動をダメもと制止せず、常に相手の気持ちになって考えようと職員に伝え、ケアの現場で具体的にその都度検討し、実践に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の手等にできるアザ、傷等発見、確認し合い虐待の無いよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者一名が日常生活支援事業を活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にTEL、面会時コミュニケーションを図り、意見を言ってもらえるようにしている。連絡ノートを活用したり話し合いもする。	万富の家だよりを発行し全ての家族に情報提供して様子を伝え、家族参加行事(花見・餅つき)の後には、家族会を開いて意見交換している。(運営推進会議には家族も参加しているので公の発言の場も提供できている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーション取れている。	毎月定期的に職員会議を開いて話し合い、職員間の連絡ノートでも情報交換している。管理者はいつも「どうしたらええかな？」と相談し、日常的によく意見交換しながら運営に反映できている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢、介護経験、人間性等を利用者に提供して、職員間の連携を図り、介護できる環境を整備し、向上心努力を認める環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報が入るとなるべく参加できるよう計画を立て、呼び掛けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換のできる事業所があり、施設での取り組み等や、また、入居希望者の情報を交換し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期はコミュニケーションを密にし、他利用者との関係も出来るように図り、信頼関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談があれば聴いている。話しやすい声掛けを行い、利用者の状態を伝えている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設するデイサービスに囲碁をしに行った利用者もいる。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安、哀しそうな時はスタッフはゆっくり話を聴き理解している。喜び、楽しみもスタッフと共有している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を家族に報告している。家族の思いも聴き、職員の思いを伝え、協力関係が出来ている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高校時代からの友人に手紙を書いたり施設に来てもらい、継続的な交流が出来ている。	地元出身の利用者が少ないので、買物や散歩に出掛けて知り合いに会う事もないが、外泊して2～3日いないだけで寂しがり、入院すれば「いつ帰るかな」と心待ちにして、帰ってきたら泣いて喜ぶ利用者同士の馴染みの関係が芽生えている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援の内容や注意が必要な点について情報提供を得て、きめ細かい連携に心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや性格を考慮している。本人の強い思いは尊重している。	「年取ったが私がとやかく言うのでなく、ここで決めてもらった事を皆と一緒にやっていきます。手伝いもしたいけど年なので、私が手伝おうと思った時にします」等本人・家族の言葉で思いや意向をよく把握できていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に食事や衣服に表れている。個性を尊重している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンを把握している。心身の状況の変化を共通理解している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化の報告がある。スタッフと話し合い、本人、家族にも介護計画を確認している。	本人・家族から計画作成担当者がよく話を聞いて、情報を職員に伝えプランを作成し、全職員で様子を見ながら検証しプランに反映させている。何かあればその都度、定期的には3ヶ月に1度プランを見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を朝、夕に申し送りをする。その都度介護の方向性を確認している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院等の必要な支援は対応している。家族、本人のニーズに応じて併設のデイサービスを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会を見に行ったり、文化祭なども見に行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医になっている。又、受診、通院、往診は、家族の希望に応じて対応している。	出来る家族には受診介助をお願いしているが、できない場合や緊急時にはホームでも受診支援をしているので、それぞれの利用者のかかりつけ医との関係は構築できている。常に主治医と連携しながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行うようにしている。介護職員と看護職員の連携も密にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐため事業所での対応可能な段階でなるべく早く通院できるよう医師と相談する機会を持っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師とも常に連携を取りながら納得してもらえる援助をしている。	本人・家族の強い希望があり、医学的な問題もなく家族・主治医の協力が得られるならば、職員とも相談して出来る限りのターミナル支援をしたいと考えている。3人介助の入浴支援を行い、看護師資格保持者の職員も確保して、最期までホームに居てもらえるよう努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故対応マニュアルは作成している。すぐ確認できる場所に掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回利用者と共に避難訓練を行っている。運営推進会議で地域の協力もお願いしている。	災害時のマニュアルや連絡網を作成し、昼と夜を想定した避難訓練を実施した。消防署の協力を得て消火訓練も行った。運営推進会議で避難訓練の報告をして、地域との協力体制について相談した。	運営推進会議で避難訓練の報告はしているが、具体的な対策までの話し合いには至っていない。運営推進会議で避難訓練を実施してみよう。現場を実際に体験してもらえば効果がありそうだ。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを尊重している。トイレ誘導等もさりげない声掛けで対応している。	字を書くのが好きな人には字を書いてもらいリビングルームに掲示したり、裁縫上手な人・料理が好きな人・歌を歌うのが楽しみな人等、その人の得意を活かした支援が出来ていた。プライドの高い人・怒りっぽい人等それぞれに合わせた声掛けを心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせて声掛けする、しない、行く、行かない等本人が決める場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴等は時間を決めているが、本人の体調、希望を聞き、見ながら職員と相談して対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各々の意向、生活習慣に合わせて支援している。服装、化粧など本人と相談しながら季節感も考慮に入れてしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家農園で採れた野菜等を好みや苦手なものを踏まえ献立を立てる。野菜の皮むき、調理、盛付け、洗い場、片付け等も共にしている。	「ここへ来て人参食べられるようになった」「私もええ加減食べるの早いけど、あの人はもっと早い」介助の必要な人には職員が付いて食べやすいよう調理した食事を支援しながら、皆で談笑しながら食べていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調と摂取量を把握して、食が進むように工夫している。体重の増減、食事量のチェック等をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて歯磨きの声掛け実施。義歯の方は週一回洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行不可能な利用者には立ち上がりが多い時等、トイレのサインをキャッチしてトイレ誘導している。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛けトイレ誘導できていた。出来る限りトイレでの排泄を心掛け、尿、便意がなく紙パンツにパットだった人が、時にはトイレで排泄できるようになる等改善事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜の摂取に気を付けている。運動は利用者の状態に合わせてしている。又、散歩もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回は入って頂くようにしている。希望があれば変更も聞いて入浴支援を行っている。	入浴拒否の場合も無理強いせず、タイミングをずらしたり、人を代え日を替えて、その気になるよう気長に誘い、2日に1度は入浴してもらおうよう支援している。入浴時は身体状況をチェックし、マンツーマンで接する大切な時間と考えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出で疲れているときは休憩して頂いている。夜間ぐっすり眠れるように日中の活動に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイル作成で職員が把握できるようにしている。薬の処方、量の変更で本人に変化が見られた時は看護師、職員、主治医と連携している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、漬物、切干大根、干し柿作り等経験、知恵を発揮してもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行ったり外出に出たり家族の協力もあり、外出は出来ている。	日常的な散歩や買い物以外に、初詣や花見等季節の行楽にも出掛け、地域行事にも積極的に参加している。ホームの畑を上手く活用し、花や農作物を植え、皆で収穫を楽しむ等良い刺激になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額な金銭を持っている利用者には必要な物がある時には、自分の財布よりお金を出して購入して頂き、安心、満足感に配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に何度か家族に葉書を出したり、友人に年賀状を書いたりしている。友人、家族からの電話もある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りは季節感のある貼り物を利用者で作成している。	利用者の塗り絵や書の作品、季節感溢れる共同作品や雛人形、写真等を飾ったりリビングルームは、家庭的な雰囲気が漂っている。食卓・テレビ前の長ソファ・居室等と利用者は気分に合わせて居場所で寛いでいた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、テーブルを置き、居場所となるスペースを作っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には写真や小物を置き、その人らしく居心地の良い雰囲気にしている。足元の悪い方には物を置くことで危険な場合にはフラットにしている。	「山がよう見えるじゃる、紅葉もきれいだったよ」窓からの眺めを楽しんでいる人もいる。花や塗り紙カレンダー、写真等を飾る人や、タンス・テレビ・机等を持ち込む人も居て、その人らしい居室になっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関スロープ、手摺の設置。トイレ洗面所、風呂、ホール内壁面の手摺の設置。建物内のバリアフリー化をしている。		